

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第11号(通算61号)
平成31年3月22日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



四つ葉学園(第四中)
ブリッジスクール
「中1生 合唱曲/校歌 披露」
2月20日(水)

「できない」から「できた」へ

小中一貫教育推進課 指導主事 生方清司

日本財団が行った「不登校傾向にある子どもの実態調査」があります。調査結果の中に「中学校に行きたくない理由について、身体的症状以外の要因では『授業がよくわからない』『良い成績がとれない』『テストを受けたくない』など、学習面での理由がみられた。」「学びたいと思う環境は、『自分の好きなことを突き詰めることができる』場所、『自分の学習のペースにあった手助けがある』場所、『常に新しいことが学べる』場所などであった。」とありました。自分に合った内容や環境で学習できることの重要性を、この調査結果からも私は感じました。

子ども一人一人の実態を客観的なデータから把握し、どのような手立てを講じるとできるようになるのか。それも、やらされると感じながらではなく、子どもが自分からやりたくなるように。「できない」から「できた」と子どもが実感できる取組が大切だと考えています。

平成30年度の三条市における就学相談件数は、年長児から中学2年生(義務教育学校8年生)まで200ケースを超えました。就学相談員をはじめ各学校の特別支援教育コーディネーターや各学級担任、管理職も含めて多くの方から十分な情報提供と丁寧な相談を進めていただきました。特別支援学級や特別支援学校、また通常の学級へと一人一人に合った内容や環境で学習することについて合意形成を図っていただきました。本当にありがとうございました。

「できない」と感じていた子どもたちが、「できた」と実感できることを願うとともに、三条の先生方なら「できた」と子どもが実感できる取組ができるはずだと確信しています。

引用:「不登校傾向にある子どもの実態調査報告書」日本財団

https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/new_inf_201811212_01.pdf

学園の取組紹介

さかえ学園 小中一貫教育活動報告会 (2/22)



さかえ学園では、年に一度、栄地区の方々に向けて、小中一貫教育活動の報告会を行っています。今年も100名近くの参加があり、教育センターホールでさかえ学園の取組を報告しました。

さかえ学園で行っているフラワーロード活動やあいさつ運動などの小中一貫教育の活動が、児童生徒の自己肯定感や中学生への憧れの気持ちを育てていることなどが報告されました。

その後、グループ協議を行いました。グループ協議の中では、来年度の小中一貫教育の活動がどうすればよりよいものとなるか話し合われました。活発な意見が交わされ、どのグループも時間が足りない様子でした。

地域の方々の熱意が伝わってくる報告会でした。



四つ葉学園 小中一貫教育拡大推進協議会 (2/21)

第3回小中一貫教育推進協議会は「拡大」として実施しました。自治会長やコミュニティセンター長、学校評議員や子ども育成会の方々なども含め、総勢40名が参加しました。

「子どもの育ちを支える学校・家庭・地域の取組」というテーマで、6つのグループに分かれて熟議を行いました。

来年度からコミュニティ・スクールとしての活動が始まる四つ葉学園です。順調なスタートに向けて準備が進んでいます。



道徳科カリキュラムについて

道徳の教科化が小学校で始まり1年が経ちます。4月からは中学校で始まります。中学校で使用される道徳の教科書が昨年8月に決定し、教育センターでは「道徳の小中一貫教育カリキュラム」の作成を進め、先日完成し、各校にそのデータを配信いたしました。なお、このカリキュラムは、教科書の教材と、「生きる」の資料全てについて、1時間ごとの授業の進め方が記載してあります。また、9年間のつながりがどうなっているかについても記載してあります。各校において有効に御活用ください。

外国語活動・外国語科 から 英語科 へのつながり

小学校外国語活動・外国語科の移行期間1年目が終了します。新年度4月の中学1年生は、これまでとは異なる英語力を身に付けて入学します。中学校で使用する教科書はこれまでとは変更ありませんが、生徒の学習履歴に合わせて授業内容を若干変更する必要があります。そのための準備を現在各中学校で進めています。学園の6年生の学習内容を受けて、中学1年生（7年生）の授業をどのように改善すべきか、より効果的な授業にするための留意点等を一覧にまとめています。（下表参照）

これからも児童生徒の英語力向上に向けて、学園一体となつての取組をお願いします。

<ある学園の「6年生から中学1年生(7年生)における英語学習の留意点(一部抜粋)」>

平成30年度 6年生の単元 主な学習内容	自学園6年生の学習内容 実際に行つた言語活動や児童の様子等	平成31年度 中学1年生(7年生)の留意点、学習(活動)内容
I want to be a bus driver.	・「インタビュービンゴ」(What do you want to be? I want to be a/an ~と尋ね合う活動)	Chapter 2 Project(p80)の「友達紹介」の学習時に、“He wants to be a doctor.”の1文を入れて復習とする。その後2年生での学習へつなぐ。

平成30年度 三条市小中一貫教育アンケート(共通項目) 総括

今年度から調査項目を3つに絞り、学校評価等アンケートと一緒にするなどして実施しました。本調査実施に御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今回の結果から見られる市全体の様子について考察しました。各学園の結果と併せて、今後の小中一貫教育の充実にお役立てください。

主な成果	<p>I 学園内の仲間とのつながり～安心感、自己有用感、自己肯定感～ 小中・小中交流活動の充実により、中学進学への不安軽減の肯定的評価が高い。また、交流活動のねらいを踏まえた働きかけをしている教職員が年々増加している。</p> <p>II つながりを意識した授業の実施～9年間を見通した学習支援～ 9年間の学習のつながりを意識した授業を行っている教職員が9割程度と高く、また、児童生徒の前向きな学習態度においても全ての学年において8割以上から9割程度と高い。「9年間の学習内容のつながりを考えた授業実施」についての保護者の認知度が大きく上がった。</p>
主な課題	<p>I 学園内の仲間とのつながり～安心感、自己有用感、自己肯定感～ 交流活動における中学生の肯定的評価が十分とは言えず、自己有用感、自己肯定感を抱くことのできる対策が必要である。</p> <p>III 地域とのつながり～故郷への愛着～ 保護者、地域との活動の機会において、児童生徒への教師の働きかけはしっかりと行われているものの、児童生徒の活動への積極性が高くない。</p>
今後の方向	<p>I 学園内の仲間とのつながり～安心感、自己有用感、自己肯定感～ 中学生の自己有用感、自己肯定感を高めることに重点を置き、学園の教職員や地域住民、保護者から中学生に対して、活動の評価(価値づけ)を意識して行うように働きかける。</p> <p>II つながりを意識した授業の実施～9年間を見通した学習支援～ 小中一貫教育カリキュラムの改訂と併せ、9年間を見とおした学習支援(学習問題◎のある授業、カリキュラムを活かした授業、乗り入れ授業、合同授業研究など)の充実を働きかける。</p> <p>III 地域とのつながり～故郷への愛着～ 活動が価値あるものとなるために、活動のねらいの伝え方が児童生徒の参加意欲に影響することを常に意識するように働きかける。</p>

平成30年度「教職員研修、講座」を振り返って

今年度の教育センター主催の「教職員研修、講座」が、皆様の御理解・御協力のおかげですべて終了しました。今号では、数値的な面から「教職員研修、講座」を振り返りました。

I 基礎研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
小中一貫教育基礎研修会	1	4月	174	*

II 実践研修

1 小中一貫教育を通して学力を向上させる研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
新学習指導要領対応研修	1	7月	32	100
全国学力・学習状況調査を活用した授業改善研修	1	11月	6	100
授業づくり研修①②	4	5、6、10月	59	100
外国語指導力向上研修	5	4、6、11、12月	114	100

2 小中一貫教育を通して人間関係を豊かにする研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
不登校児童生徒対応力向上研修	2	6、8月	44	100
生徒指導研修会	1	4月	28	100
道徳教育指導者研修	1	9月	38	100
ハイパーQ U活用研修会 ※1回目は基礎研修	3	6、7、11月	58	100
学級経営研修会	1	12月	79	100

3 小中一貫教育の視点を生かした各種教育研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
デジタル教科書活用研修会	1	8月	12	100
プログラミング教育研修会	1	1月	15	100
環境教育研修会	1	5月	7	100
防災教育研修会	3	6、9、11月	154	*
個別の指導計画の作成と活用研修	1	5月	16	100
特別な教育課程に基づく授業づくり研修	1	6月	23	100
合理的配慮研修会（インクルーシブ教育システム研修会）	1	8月	27	100
子どもの行動から考える支援研修	1	8月	43	100
読み書き困難のある子どもへの学習支援	1	9月	22	100
WISC-IV分析研修	2	10月	11	100
通常学級における特別な配慮に基づく授業づくり研修会	1	11月	5	100
特別支援教育講演会	1	7月	151	100

III 充実発展研修

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
小中一貫教育推進マネジメント研修	2	4、9月	56	100
コミュニティ・スクール研修会	2	7、11月	111	*

IV その他

研修・講座名	講座数	実施月	受講者数	評価
メンタルヘルス研修	1	7月	9	100

※「授業力向上実践研修」「刃物・ものづくり教育推進事業」「科学教育推進事業」は別途報告。

全体（講座数と受講者数は合計、評価は平均）	40	4～12月	1,294	100
-----------------------	----	-------	-------	-----

※ 評価…受講者アンケートによる4段階評定（A、B、C、D）の「A」と「B」の合計。（%）

A：役に立った	B：どちらかといえば役に立った	*…アンケートを実施せず
C：どちらかといえば役に立たなかった	D：役に立たなかった	

